

下水道管路施設における維持管理情報等を起点とした マネジメントサイクルの確立に向けた技術検討会

設置趣旨

下水道整備の進展に伴い、全国における下水道の管路施設は約 47 万 km であり、今後は施設の老朽化が急速に進行していくことが見込まれている。このため、平成 27 年度において、下水道法を改正し、維持修繕基準を創設するとともに、事業計画の記載事項として点検の方法・頻度を追加した。また、平成 28 年度には、計画的な点検・調査、長寿命化を含めた改築を支援するために、下水道ストックマネジメント支援制度を創設したところである。

しかしながら、未だ、管路の老朽化等に起因した道路陥没が年間約 3,000 件発生していることなどを踏まえ、膨大なストック量を有する管路について、さらに効率的・効果的な点検・調査をもとに、修繕・改築を行うことが必要不可欠である。このため、ICTを活用し、施設の設置状況、維持管理情報をデータベース化し、データを起点とした点検・調査、修繕・改築を行うマネジメントサイクルの確立を図ることが重要である。

本検討会において、マネジメントサイクルを標準化するために、施設情報等のシステム化、維持管理情報の活用手法、より効率的な点検・調査方法等について検討するものである。